



2023年度 ほけんだより 第6号

久宝まぶねこども園 992-2033

9月26日発行

9月後半になっても厳しい暑さが続く中、今年は例年よりも早くインフルエンザが流行し、全国的に学校等では学級閉鎖になっているところも多いようです。空気が乾燥してくると、より一層感染症は流行りやすくなります。毎日の体調の変化に注意するとともに、室内の温度や湿度の調節、換気、そして手洗いもこまめに行うようにしましょう。

- ・インフルエンザが流行しています。インフルエンザの検査は医療機関で15分ほどで結果がでますが、発症後12時間後から48時間以内に検査を受けるのが望ましいです。発熱などの症状が出てすぐに検査をしても正確な結果が出ないことが多いようです。
- ・インフルエンザと診断された際は、「意見証明書及び登園届」の裏面のインフルエンザ新型コロナウイルス感染症による経過観察表を保護者にて記入し、病院にて表面の登園届を記入してもらい、登園してください。
- ・園児と就学児とは出席停止期間が異なりますのでご注意ください。

インフルエンザと診断されたら〇〇〇〇〇〇

インフルエンザは、症状が重くなりやすく、体力を消耗します。回復するまでしっかり休むことが大切です。登園再開には、①と②の両方を満たしていることが必要です。また、登園前に、かかりつけのお医者さんに、登園できるまで回復しているか確認をお願いします。

① 発症した後
5日経過していること

② 熱が下がってから3日経過していること
(熱が下がった翌日から数えて3日)



パターン1 熱がすぐ下がった場合
発症の翌日に熱が下がった場合、発症から5日経過するまで休みましょう。

パターン2 3日後に熱が下がった場合
発症から5日後、たとえ熱が下がっていたとしても、解熱した翌日から数えてまだ2日目なので、もう1日お休みしましょう。

お願い

予防接種後に登園する場合は、必ず医師に確認の上、登園するようにしてください。お子様によっては、発熱したり、接種箇所がかなり腫れ、自宅で安静に過ごされる方が望ましい場合もありますので、必ず相談の上、登園をお願いします。

また、予防接種を受けられた場合は、園でも経過観察を行いますので、担任までお知らせください。

正しい熱の測り方

- ・毎日、登園前に検温をして頂きありがとうございます。
- ・非接触の体温計が主流となっていますが、非接触体温計は気温の変化に左右されやすく、脇で測る体温計と比べ低く測定結果でできるように感じます。非接触の体温計で測定されている場合は、一度、脇で測った測定結果との程度差があるのか確認をお願いします。
- ・起きた直後、食事、入浴、大泣きした後などは体温が高くなるので、30分ほどたってから測りましょう。

①体温計を上向きにあてる



脇の下の最も深い場所に、斜め上に向けて当てる。

②大人が抱える



体温計を挟んだ方の腕を胸につけ、大人が抱える。

機嫌が悪い、元気がない、顔や首などがいつもより熱いというときは、発熱のサインかもしれません。熱を測ってみましょう。

アデノウイルスについて

全国的に流行しており、当園でも流行の兆しがあります。発熱等で受診する場合、アデノウイルスの感染者が園にいることを医者に伝え、検査をお願いします。アデノウイルス感染症の場合、解熱後2日間の自宅療養期間が必要ですので、発熱が続き、検査をされない場合の登園は解熱後2日間の自宅療養期間後の登園にご協力をお願いします。

<症状>

咽頭・扁桃炎：39℃～40℃の高熱が4～5日続き、のどの痛みもみられます。
結膜炎：目が赤くなり、目やにがでます。
胃腸炎：下痢、吐き気、腹痛を伴うこともあります。
登園には意見証明書及び登園届が必要です。

